

日時：2018年8月30日（木）13：00－18：00
会場：森下スタジオ・Aスタジオ（〒135-0004 東京都江東区森下3-5-6）
協力：公益財団法人セゾン文化財団
参加：48名+JCDN 3名

緊急！ダンスミーティング<東京>での発言をJCDN事務局で取りまとめました（一部意識省略等含）。

第一部：**それぞれの現場からの現状・課題・課題に対するアイデアなどの紹介**

参加者の皆さんから、自己紹介と本日のミーティング参加に際して考えていること等、各自2分程度で発言いただきました。

- ▶ 財団職員：コンテンポラリーダンスという言葉だけが一人歩きしていて、本当は他ジャンルも含めたダンス全体の課題というのがあるはずでそれが共有できていないのでは。
- ▶ 芸術文化施設運営者：行政との仕事がとても多く、増えてきているので、普遍化、一般化しているという印象があるが、その内容についてはあまり議論が進んでいない気がしている。
- ▶ ダンサー：普段助成金や仕組みの事を知る機会が少ないので学びたいと思って参加。
- ▶ 大学院生・ダンサー：ダンス活動と生活のための仕事の両立が本当に大変。
- ▶ ダンサー・振付家：社会的にダンスが仕事として認められているのか不安がある。
- ▶ 大学関係者：ソーシャルイノベーションの立場からどういう貢献をできるかまずは現状を聞きたく参加。
- ▶ ディレクター：20年の成果として、ダンサー振付家の質が比較にならないくらい上がった。
- ▶ ディレクター：企業メセナの観点から分析すると、ダンスの業界からの企業に対するアプローチが少なかったのではないかと、自分たちの売りはなんなのか。
- ▶ 劇場運営・若手アーティスト協賛事業担当者：アルバイトしながら活動をしている若手アーティストが疲弊しないようにしながら活動できる環境づくりが課題。同時に、アーティストと並走する若手制作者の少なさ、激減も課題。
- ▶ 振付家・ダンサー：個人的な問題は生活、収入と労働時間のギャップ、個人でいくら考えても仕方ないので劇場や制作側の意見を聞きたい。
- ▶ プロデューサー：文化庁など、助成金制度はお金を出すときの理論は説明があっても出さなくなるときは説明がない、なぜ書類主義なのか。
- ▶ フリーランス批評家：特にジャンルを問わず色々な場所でのパフォーマンスを見るようにしていて、どれも本当に興味深く面白いと感じている立場から見ると、今のコンテ界の何が課題なのかわからないので参加。
- ▶ 制作者：助成金については幾つか課題も感じるが、コンテンポラリーダンスの、ダンスの中身に関する課題を多く感じている。
- ▶ 制作者：仕事内容が多岐にわたり、小屋付きが多くフリーの制作者がほとんどいない。フリーがいないとアーティストに並走することができないので、それが全体的な質に影響していると思う、制作者をどう支援できるかという視点も助成には必要と思う。
- ▶ 制作者：ダンスアーティストの稽古場の問題、統括団体やネットワークで現状を打開できるのではと期待。
- ▶ 制作者：ダンスを広めていく為の基盤整備に興味がある。アーカイブの重要性。90年前後から2012年頃までの上演データが全く残ってなくて、それによってコンテンポラリーダンスがこの20年近く何をやってきたのか、何を成し得たのかが他の業界にアピールできない状況になっている、その危機感。
- ▶ 大学院生：コンテンポラリーがマイノリティとしてどう承認されるかという課題。いわゆる可視化を高めていくというのが大事に思う。コンテンポラリーダンスに生産性を求められがちな現状に疑問。
- ▶ 財団職員：自治体は施設を作るのが大好きで、これからも10を超える施設が全国で予定されているがそのあとの運営には積極的ではない。施設をもっと活用する方法があるのでは。

- ▶舞踊評論家：公的機関の助成金の審査員を務めた経験から、日本の文化事業は美術と音楽という2つを非常に大きく支援してきている経緯があり（大学の学部は美術と音楽）、現状の課題はそのあたりから派生しているのでは。
- ▶舞踊評論家：文化庁の予算も美術と音楽の予算は舞踊の予算に比較にならないほど多い。予算規模と応募団体数は比例する傾向にある。現段階では、舞踊の予算そのものを他の分野並みに押し上げて行く必要がある。
- ▶福祉教育関係者：仕事にダンスを取り入れた活動をしていこうとしている。その事業を通して、パフォーマー側の負担が大きすぎる、チケットノルマや労働時間の負担が大きいという課題を認識した。
- ▶制作者：シニア層向けの事業展開は今後ニーズがあり、急務。
- ▶振付家・ダンサー：長年、訓練をする、作品を作る時間、働く時間がとても少ない結果、ものを見る力、表現する力が重なっていかないという課題をずっと抱えている。
- ▶助成企画人材育成担当者：質量ともに、コンテンポラリーダンスというジャンルに関する勢いが落ちていくと感じることが多い。トヨタコレオグラフィアワードなども終わってしまったというのも象徴しているように感じる。すごく小ぶりになっている感触。
- ▶ディレクター：文化庁の人材育成に関しては単純に評議員に関しては99%バレエだった、だから採択されないという単純な話だと思う。
- ▶財団職員：助成事業を担当する中で、数年、アーティスト支援助成への中堅のアーティストの申請がすごく減ってきているので、活動を継続しにくい状況があるのではと感じている。
- ▶ダンサー：アーティストとして自立していく方法を模索中。ダンスを取り巻く状況がどうなっているのかを把握。アーティストとして感じている課題は、場を生み出そうという意識がアーティスト自身に希薄なのではないかということ。
- ▶振付家・ダンサー：ダンスには様々な可能性があって大きな器があるのに、社会でどう評価されるのかという不安がある。高校生を指導しているが、卒業後にダンスをする場が想像できないのでやめてしまうケースが多い。
- ▶制作者・拠点運営：ダンサーかつ制作者という立場で何ができるかというのが根本にある。地域における劇場の役割というのを模索中。
- ▶制作者・拠点運営：アーティストや制作者の経済的な自立という問題と、助成金や枠組みの問題など色々な課題があるが、それらを一緒にしないでそれぞれをわけてひとつずつクリアしていければと思う。
- ▶制作者・拠点運営：今日のミーティングの主目的は、JCDNの問題定義なのか、コンテ界の問題定義なのか曖昧。それぞれをクリアに分けて話をしないといけない。
- ▶振付家・ダンサー：今日はさまざまな立場から広く参加しているようだが、助成金が落ちたということ、いちアーティストがお金に苦しいということはある程度みんなに共通する課題のように思う。
- ▶振付家・ダンサー：しかしそれ以前のところに話を戻す必要もあり、対話のレッスンをダンスの中でどういう風に培っていくのか。
- ▶劇場運営・助成事業担当者：お金をいただく辛さ、お金をお出しする辛さ両面理解しているつもり。
- ▶劇場運営・助成事業担当者：今日の課題として提案するのは2点。1、中間支援組織とはなんなのか。共通する問題が多分ある、資金面の問題と、束ねる技術。2、20年前は創造型劇場、公共劇場論というのをすごく盛んに言っていた、あの頃作った仕組みというのをもう一度考え直さないといけないのでは。
- ▶ジャーナリスト：媒体で仕事をしているとその時のトレンド、お金の動きがなんとなく見えることがある。今年の傾向はダンスが多い、いわゆるコンテンポラリーダンスなのか他のものなのか、時代の流れをオリンピックを前に感じている。ジャーナリストとしてひとつひとつの声を拾いたい一方でお金の関係で拾いにくいということもあり、現状を聞きたく参加した。
- ▶制作者：文化政策の提言提案をする勉強会を開いたり、できることを探りながらやっている。文化庁の話は、バレエ協会、バレエ連盟など採択されたところは、逆に、なにをやって採択されたんだろうか？
- ▶振付家・ダンサー：芸歴30年くらいだが経済的にダンスだけで自立でき始めたのはここ10年くらい。公的助成金ももらって教育や福祉系、社会包摂的なワークショップなどを活動と主としている一方、元来、アングラな性質を根本にもっているのも、すべてのダンスが社会性を持たなければいけないとなるとすこし息苦しい気がする。

第二部：

アーティスト、制作、スペース・ホール、評論、政策提言などいくつかのグループに分かれて、これからどうしていけば良いか、どこを目指すかなどについてディスカッション

自己紹介の後、各テーブルごとに少しメンバーを入れ替えながら、6-8名でグループを作り、自己紹介時間が出てきた各課題などについて自由に議論を深めました。その後、それぞれのグループでの主な意見を発表しました。

【グループ1】

- ・JCDNが統括団体として活動することを望む
- ・芸団協の傘下に入ることがいいのではないか
- ・コンテンポラリーダンス業界全体として統括する団体
- ・それぞれにサブネットワーク化（それぞれ：アーティストグループ、制作者グループなど）
※統括団体とは
文化庁用語、同じ業種の人たちが集まっている団体（法人格としては社団法人の場合が多い）

【グループ2】

- ・アーティストが個人で活動する際、助成金などの情報を得にくい
→アーティスト同士の横のネットワーク化によるノウハウの共有を図ることができるのでは

【グループ3】

- ・ネットワークについて
アーティスト、振付家たちの共同体（統括団体）（まとまり）があるといい。個々のダンサー同士が横に繋がりにくいという課題があるため
- ・一方、コンテンポラリーダンスの定義を狭く取りすぎているのではないか。JCDNが日本舞踊連盟とかすべてのダンスを網羅できる形にしていく必要があるのでは

【グループ4】

- ・ネットワークについて。異業種交流会的な場をJCDN主導で機会創出していくと良い
- ・その他：学校へのアーティスト派遣事業のことについて。行政、制作者、アーティストなど立場により目標が異なるのでは、明文化することが必要か
- ・観客創造：WSへの参加者を将来的な観客層にどう繋げていけるのかというアイディア出し

【グループ5】

- ・人材育成）若手アーティストが育たない。人材育成プログラムが減った、応募数も減った。→コンペを通った後の活動の場がない
- ・助成金依存体質からの脱却）助成金から外れたという現状は多様性があり、悪いことだけでもないのではないか。一方、文化政策として今の方向性は良いのか？
- ・統括団体はあった方が良い。統括団体は何を統括するのが鍵、議論する焦点

【グループ6】

- ・アーティスト同士のつながりが薄い→協働できる場ができたらい
- ・観客同士のつながりが薄い→つながれる場があればいい
- ・スペースを持っている団体、個人が主導になって、定期的に発表できる人が集まれる場が創出できればいいのでは。

第三部：

各グループの発表と、その内容を受けて、今後どのようにしていくか、何か出来るか、など具体的な方策の話し合い

各グループごとの発表を受け、全員での議論の時間に移行しました。以下、主な論点と意見を抜粋して記載します。

主な課題は以下2点に集約されるのではないかと。

課題1：文化庁助成金申請対策

課題2：コンテンポラリーダンス自体が終わってしまうのではないかと（個々人の課題を全体で共有し解決していく仕組みの模索）

- ・統括団体のあり方のイメージをもう少し詳しく定義してみる
 - JCDNが統括団体になるのか/新しい団体を作るのか
 - 佐東：JCDNのミッションは社会とダンスをつなぐ団体を目指したい
事業主体からつなぐ方向へシフトチェンジできればと考えている
 - 新しい時代の統括団体のあり方を探りたい
 - 例) JCDN=事業部門+政策提言部門
 - 例) JCDN=JCDN本体+サブネットワーク組織

- ・統括団体が事業を実施することについて議論の余地あり（+-両面）

- ・統括団体というものの規定は？
- ・JCDNという統括団体の元行われる様々なジャンルの事業は誰が実施するかどうかを決めるのか
 - 企画調整会議とか？
 - コンテンポラリーダンスの出す人材育成の企画はどこが出しても似ていることが多いのでもう少しまとめることができないのかby文化庁
 - 具体的に？
 - ほかの統括団体の人材育成事業案では、たくさんのプログラムを詰め込んだ企画を申請してくる。
コンテンポラリーダンスは個別傾向がある、費用対効果という点ではどの企画を取っても同じと受け取られる。

- ・統括団体は別名称にした方がよいのでは

- ・ダンサー、アーティストと、制作者や組織運営者では同じ課題に対してのアプローチや距離感が違う
- ・ダンサー同士が話す場がないというのが課題
- ・ネットワーク自体は個々人同士の関係性による、それらを形成するためのテーブルとなる場・機会をどう作っていくかという話

- ・そもそも文化庁から助成が出なかったというのが事の発端
- ・統括団体の必要性を議論している理由は、文化庁から統括団体がないから助成採択しにくいと意見されたから
- ・ネットワークを形成すること自体の意義を考える必要があるから統括団体のことを議論している。
- ・助成金を申請するためにダンサーや振付家がネットワークを作ることによって創作環境を創造しやすくなるのでは。
- ・ネットワーク、つながること自体の良さがある。
- ・活動の経済的価値を可視化するために何が出来るか。
- ・ネットワークをつくる。そのメンバーはアーティストや制作者、個人個人
- 事業レベルのネットワーク/場所レベルのネットワーク/属性レベルのネットワーク様々考えられる。

- ・日本全体のコンテンポラリーダンス事業を行う量が減っているという現状
- ・統括団体についてももう少し具体的に考えて見る。目的、方針、中長期計画
 - 1) 1-2年の想定
 - ・具体的に同じ企画で申請する連携する団体を決めていく
 - 各団体のトップが相談する（JCDNが代表して申請するのか、連携した全団体の連名で出すのか）
 - ・新しい統括団体の設立準備をする
 - 2) この先20年の想定 →コンテンポラリーダンス界を統括する新しい団体をつくる



このあたりで、議論は尽きませんでした。課題1、2に沿って、神戸mtgへつなげるための、東京mtgとしてのいったんの結論を出しました。

課題1に対する結論) 文化庁申請対策

- JCDN名で複数プログラムを含んだ企画を申請し、賛同する人はそこに加わる
- ひとまず、文化庁申請対策は既存組織同士で相談し、代表名にするもよし連名で採択されるか実験するもよし

課題2に対する結論) コンテンポラリーダンスの社会的な地位を高めていく

- ・統括団体を作ることによってコンテンポラリーダンスの意義を社会に浸透させていくことができる
- ・統括団体のありかたを神戸mtgでは深める必要がある
(JCDNが性質を変えるのか、新しい組織を準備するのか) (その具体的な方法)

【東京mtgの成果として】

- ・統括団体的な集まりの必要性は見えてきた
- ・立場を超えたつながる場、ミーティングの場が有意義であることも確かめられた
- ・議事録は参加者全員に共有する（神戸編では議事録ではなく論点をまとめた申し送りにする）

以上